

令和元年度 2 学期始業式 式辞

長い夏休みが終わり、今日から 2 学期が始まりました。一学期の終業式は、大雨洪水警報のため実施できませんでした。皆さんが今日、夏休み中、大きな事故がなく、元気に登校してくる様子を見て、大変嬉しく思っています。

夏休みに多くの思い出をつくることはできましたか？旅行をした人、お墓参りをした人、普段、読めなかった本を完読した人、徹底的に勉強した人、部活動で大きく力をつけた人、これまでの生き方を振り返り、じっくりとこれからの目標を確認した人、新しい友達ができただ人などなど、それぞれの夏があったことと思います。3 年生はまもなく就職試験も始まります。体育祭、文化祭、2 年生の修学旅行と学校行事も目白押しです。気持ちを新たに、1 学期よりも一回り成長した高校生として頑張ってください。

さて、この夏の高校野球は大阪の履正社高校が星稜高校との決勝を制し全国の頂点に立ちました。先日テレビ番組に履正社高校の岡田龍生監督が出演されていました。そのインタビューの中で「自分で考えながらいろんなことを試行錯誤して取り組んでいく、失敗する、そしてまた何か試みる、それで何かを見つけていく。こういうことが非常に大事なんじゃないかなと思う」と仰っていました。履正社高校の練習は監督がバッティングの指導をしている間は他の選手は素振りをしたりバント練習をしたりと、自分が必要だと思う練習を自ら考えて行っているそうです。また「ワンナウト 1, 2 塁。カウントはツースリー。」その場面でピッチャーは何を投げるか、内野手はどんな打球処理をするかという場面を頭の中で設定して練習するなど生徒が考えて実践を重んじる練習だそうです。そして人が見ていようが見ていまいが、やるべきことをやる。それを選手自身に選択させるというのが岡田龍生監督の方針だそうです。いま世の中で求められているのは「自分で判断して自分の才能をどう開くか。」ということです。それが甲子園での優勝につながったわけです。「自主的に考えること」の大切さがわかっていただけたでしょうか。

まだまだ暑い日が続いていますが、実は、暦の上では、既に秋になっています。8 月 8 日が「立秋」で、11 月 8 日が「立冬」ですので、今は、秋まただ中ということになります。

四季に恵まれた日本の季節の中でも、とりわけ秋は、人間の活動に適した季節であるため色々な言葉で表現されています。皆さんも、よく耳にする「読書の秋」「芸術の秋」「スポーツの秋」「食欲の秋」・・・また、「実りの秋」という言葉のとおり、田んぼの稲も秋には黄金色に輝き、収穫の時を迎えます。

人間にとっても、秋は、これまで取り組んできたこと、努力してきたことが実を結び、結果となって現れてくる季節です。3 年生、2 年生、1 年生、それぞれに長い人生において、重要な季節です。基礎工事をしっかりと施した建物は、どんな風雨にさらされても倒れることはありません。

一日一日を大切に、目指す人生をしっかりと歩いていくために、毎日の確かな取組を、これまで以上に「意識化」して行ってください。以上、令和元年度第二学期始業式の「式辞」とします。

令和元年 8 月 30 日